
僕の喫茶店は、なぜ繁盛しないのか？

一文字

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の喫茶店は、なぜ繁盛しないのか？

【Nコード】

N4116Z

【作者名】

一文字

【あらすじ】

科学と魔法が混在する、少し不思議な近未来。そんな日本のある地方にある学園内で放課後だけ営業している喫茶「エンロン」。そのウェイター的存在である少年は、今日も少ない「お客様」相手にコーヒーと魔法を武器に接客活動、がんばります。

第1話 少女と不景気（その1）

バーのようなカウンターが備え付けられた教室に一人、カップを磨く人影がある。

「はあ、不景気がうらめしい……」

小さく声を漏らしてカップをカウンターに置く少年、始良瀬名あいらせなはため息を一つつくと辺りを見回した。

カウンターの後ろの棚には少しずつ趣の違う白いカップが整然とならべられている。

室内のあちこちにはこじやれた調度が置かれ、落ち着いた雰囲気のお店であるが、人影は数えるほどしかない。

「まあ、アレじゃある意味仕方ないんだけど」

セナの視線の先は部屋の入口の反対側を向いている。

「そろそろ終わらないかなあ」

ぼやくセナがカップを棚に戻す。

ここは喫茶室「エンロン」。

いたって普通のカフェのはず、なのだが。

「ふふふ、領子そろそろこの決戦もおわりのようじゃの」

「さあ、どうでしょうか？」

「エンロン」の一番奥まったところにあるテーブルに、二人の制服姿の少女が向かい合ってすわっている。

テーブルの上にはなにやら色々な記述がされた大判のシートがひかれ、その上には色々な絵柄がついたトランプ大のカードが一定のルールに則って並べられていた。

領子、と呼ばれた少女は金髪のくせつ毛をくるくるとまるめながら対面に座る少女に言葉を返した。

「……そちらの手番ですよ」

「わかっておる。しばし待つがよい」

もう一人、時代がかった喋り口調をする少女が眉間にしわをよせてなにやら考えている。彼女の名は戸井竹遙火。

この「エンロン」にしばしばやってくるセナのよく見知った顔、つまりは常連の一人であった。

彼女達が楽しんでいるゲームは「リーディングドラグーン」。

対戦型のカードゲームであり、プレイヤーは魔法使いとなって、手持ちカードでデッキを構築し、魔法を使ったりモンスターを召還したりして闘い、最終的にはプレイヤーのHPをヒットポイントゼロにした方が勝ちというオーソドックスなものである。

普通のカードゲームをしているくらいならば、セナにも許容できる。

問題はこのゲーム特有の、ある機能にあった。

「……これじゃカフェというよりただのダンジョンだね」

今現在、ここ「エンロン」の奥側三分の一ほどの空間はモンスターがひしめくダンジョンと化していた。

「昔カードゲームが流行ったとき、それをモチーフにしたアニメとかだとたしかにカードからモンスターがでてきたりしたけど……」。

遊戯 とかじゃないんだから」

しかし最近の技術はそんなことも可能にしてみましたらしい。

このゲーム、「実際に召還されたモンスターがその場で実体化して戦うカードゲーム」なのだ。

もちろん作り出されたモンスターやダンジョンはつくりものであり、実際に彼女らに当たっても害はない。

そんな魔窟の中心にあるテーブルでは、どうやら終局に向かって美少女二人による最終決戦がおこなわれようとしていた。

「ふむ、それでは参ろうか。……突貫っ!!」

遙火が手元にあつたカードの一枚を抜き出し、それを場に投げ出す。

すると遙火の後ろの空間に控えていた全身鎧を着込んだ騎士が雄叫びをあげながら突撃していく。

一方、それを粉碎すべく領子の側の竜が飛び、プレスをはきかける。

セナが見ているかぎり、分は遙火のほうにあるように見えた。

分厚い攻撃の波をどうやら領子は押し返すことが困難なようだ。

もっとも彼にしてみれば早いとここの事態を収拾したいのだ。

「む、なかなかやるな領子。よし、これで……」

勝利の凱歌をあげるため遙火が次の手を打とうとしたとき。

「お客様、お待たせいたしました。コーヒーをお持ちしました」

セナはそう言って、少女達の目の前にそれぞれカップが置くのだ

つ
た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4116z/>

僕の喫茶店は、なぜ繁盛しないのか？

2011年12月15日00時51分発行